



Succession and Changes

2019年

10月13日(日)

13時～15時

会場

実践女子大学渋谷キャンパス8階804教室



入場無料

事前申込不要

学園祭「常磐祭」開催中



登壇者

稲垣伸一

実践女子大学文学部英文学科教授

大関啓子

実践女子大学文学部英文学科教授

広井多鶴子

実践女子大学人間社会学部人間社会学科教授

志渡岡理恵

実践女子大学文学部英文学科准教授



日英米の女子教育と服装改革の歴史

動

く

女

性



アクセス

JR渋谷駅東口 16C出口から徒歩約10分
表参道駅 B1出口から徒歩約12分

所在地

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49

TEL 03-6450-6817 (代表)

※ 駐車場はありません。
公共交通機関をご利用ください





「動く」女性

— 日英米の女子教育と服装改革の歴史 —



稲垣 伸一

SHINICHI INAGAKI

実践女子大学文学部英文学科教授。
19世紀アメリカの文学・文化を研究。

「19世紀アメリカの衣服改革 —健康増進と女性解放—

アメリカ合衆国では19世紀半ば以降、女性の健康増進を目的として、コルセットを用いた伝統的服装から女性を解放しようとする服装改革が提唱されました。この改革運動の広がりを女性解放運動、徒手体操、水治療、ユートピア運動から概観します。



大関 啓子

KEIKO OZEKI

実践女子大学文学部英文学科教授。
中学から修士まで実践、ドクターは学
習院。ケンブリッジ大学客員研究員の
時に、縁あって下田歌子研究を始める。

「実践のルーツを英国に追う」

1895年5月、下田歌子はヴィクトリア女王に謁見し、その少し前から一般の女子コレッジを視察し始めます。前年の日清戦争で、日本の将来に危惧の念を抱き、「百年の善後策」として、一般女性の教育に目をむけたのです。英国の女子コレッジで何を目にし、帰国後の実践女学校にどう活かし、その将来に何を考えたのか？ 25分間では、とても語れそうにありませんが、努力します！



広井 多鶴子

TAZUKO HIROI

実践女子大学人間社会学部
人間社会学科教授。
近代日本の家族と教育について研究。

「女袴、セーラー服、そしてブルマー —女子学生の服装の変化が意味するもの—

男性の衣服は明治初年から洋装化が進み、男子学生は詰襟の学生服を着るようになります。他方、女学校の制服は「女袴」の時代がしばらく続いた後、1920年代に入ってようやくセーラー服に変わります。なぜ女学校では袴が制服とされたのか、また、なぜ袴からセーラー服に変わったのかについて考えます。



志渡岡 理恵

SHIDOOKA RIE

実践女子大学文学部英文学科准教授。
イギリスの女性と文学・文化の関係を研究。

「合理服、スポーツ、自転車 —19世紀イギリスの女性解放運動—

下田歌子が視察に訪れた19世紀末のイギリスでは、動きやすい服を着た女性たちがスポーツを楽しみ、自転車で自由に移動し始めていました。この現象の背景にある女性解放運動の理念と活動を振り返り、その意義を考えます。

主催 実践女子大学生涯学習センター
共催 実践英文学会
後援 渋谷区教育委員会
お問い合わせ先 実践女子大学生涯学習センター
TEL: 042-589-1212
E-mail: shogai-gakushu@jissen.ac.jp



Education and clothes

